❍ワークショップ
「観光経済学」

開催責任者　　経営学部　赤壁弘康
経営学部　南川和充
2019 年 12 月 7 日
南山大学 J 棟 5 階 R55 教室

ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

観光産業、ホスピタリティ産業、ツーリズム産業、地域、都市、交通に関する経済学的および経営学的観点からの研究をテーマとする。今年度は、前年度からの継続として①観光事業者意思決定（施設立地など）、②観光消費者行動（交通・宿泊など）、③観光振興（道の駅、リニア新幹線など）に加え、④観光の社会的・経済的効果など、観光の新動向に関する課題に取り組むことを研究目標とする。

◇報告者および題目

1. 報告者：深見 聡（長崎大学環境科学部人間社会環境学系准教授）
   論　題：屋久島における入山協力金制度と地域ガバナンスの再構築に関する考察
   討論者：南川和充（南山大学経営学部教授）
2. 報告者：林涛（愛知大学大学院中国研究科博士後期課程）
   論　題：名古屋城本丸御殿のインバウンド対応に関する一考察
   討論者：猿爪雅治（愛知大学経営総合科学研究所客員研究員）
3. 報告者：周暁飛（山口大学大学院東アジア研究科博士後期課程）
   論　題：レトロ商店街における老舗と文化観光化

討論者：和栗隆史（大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程）

4. 報告者：功刀祐之（松山大学経済学部経済学科准教授）

論　題：観光客数と自然資本の関係について－離島を対象としたパネル・データ分析

討論者：赤壁弘康（南山大学経営学部教授）

5. 報告者：PERLAKY, Denes（山口大学経済学部観光政策学科観光コミュニケーションコース助教）

論　題：Tourism Statistics and Rural Tourism Area Life Cycle(TALC), Case Study Of Tsuwano

討論者：江口善章（兵庫県立大学環境人間学部教授）

◇ワークショップの討論内容

研究目標に沿って得られた成果について、以下では 2 件の概要を示す。

・林涛報告は、名古屋市のもっとも典型的な観光スポットとして名古屋城を事例に取り上げ、観光現場のインバウンド対応の問題点を探るものである。特に外国人客への言語対応に注目しており、報告者自身による 4 か月間の短期アルバイトでの参与観察、運営側の責任者・職員へのインタビューに基づく検討を行っている。運営側の人員体制（日本語、英語、中国語対応）、本丸御殿の間取りと動線管理（人員配置）、運営マニュアルから見る外国人客への配慮の実態が説明され、中国人観光客急増によるマナー面での問題事例の紹介がいくつかあった。これらの問題は主に文化習慣の違いが原因であるとし、次々に起きる問題とそれへの対策の変遷を時系列で考察した結果、運営側の今後の課題や行政側の役割についてまとめている。

・功刀報告では、より早急な対策が求められる離島地域の「地域資源を活用した持続可能な地域づくり」を議論していく上で、我が国の離島の姿はどのような実態であるのか、また、我が国の離島における自然環境は観光客数増加に影響を及ぼすかについて検討している。具体的には、日本における離島地域のパネルデータ分析により、離島地域における自然資本の質（その離島にある自然公園が国立公園、国定公園、県立公園指定かどうか）と離島への観光客数との関係性を定量的に把握した結果、自然公園の質が高いほど観光客が増加することを明らかにした。また、離島に空港が存在する場合ほど自然環境の要因が観光客数をより増加させる効果をもつこと、そして、離島の宿泊能力が高い場合ほど自然環境の要因が観光客数をより減少させる効果をもつこと、という交互作用効果を検証した。

なお、2019 年度は同研究会メンバーでは観光経済経営学ワークショップ（in 奈良）として、以下の研究会も開催した（これは経営研究センターからワークショップ助成は受けていないが本「観光経済学ワークショップ」との共催で実施した。）

日　　時：2019 年 9 月 7 日（土）13:00－18:00
場　　所：奈良県立大学（地域交流棟　小研修室）
座　　長：麻生憲一（立教大学観光学部）

1. 報告者：RATU, Milika（立教大学大学院観光学研究科）
   論　題：Benefits and Challenges of Community-owned tourism：Case of Lavena village,Taveuni, Fiji
   討論者：南川和充（南山大学経営学部）・佐藤政行（経済経営都市研究所）
2. 報告者：和栗隆史（大阪府立大学大学院経済学研究科）
   論　題：寺社を宿泊施設として活用する滞在型コンテンツ「寺泊（テラハク）」の経済波及効果に関する一、二の試算～高野山 52 宿坊や全国先進事例を基礎データとして～
   討論者：赤壁弘康（南山大学経営学部）
3. 報告者：角本伸晃（実践女子大学人間社会学部）
   論　題：観光都市の検出について（仮題）
   討論者：新納克廣（奈良県立大学地域創造学部）
4. 報告者：深見　聡（長崎大学環境科学部）・藤田果奈(東武トップツアーズ)
   論　題：担い手からみたわが国におけるユニバーサルツーリズムの現状と課題
   討論者：津田康英（奈良県立大学地域創造学部）
5. 報告者：須佐淳司（常葉大学経営学部）
   論　題：観光振興のアントレプレナーシップ―地域資源の再定義事例にみる―
   討論者：田中康介（神戸学院大学経営学部）

◇研究成果発表

深見聡、「観光と地域 －エコツーリズム・世界遺産観光の現場から－」、南方ブックレット 8、南方新社、2019 年 10 月。

赤壁弘康・竹澤直哉、「地域事業者間の自発的提携によって「地域の 6 次産業化」の実現は可能か? －2 次産品が乳製品の場合－」、日本観光学会誌、第 60 号、日本観光学会、pp.22-38、2019 年 12 月。

井出明、「ダークツーリズム －悲しみの記憶を巡る旅－」、幻冬舎、2018 年 7 月。

荒木長照・田口順等、「クルーズ選好の要因分析－旅スタイルに関するアンケート調査による分析－」、日本クルーズ＆フェリー学会論文集、第 8 号、p9-18、2018 年 3 月。

角本伸晃、「観光土産品の現状と土産品店の立地－菓子類を中心として－」、経営総合科学、第 112 号、愛知大学経営総合科学研究所、pp.19-42、2020 年 2 月。